

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## 国がサンゴ移植や N2護岸の着工を強行

軟弱地盤、遺骨土砂問題、サンゴ破壊などで  
県民に追い詰められ焦る菅政権

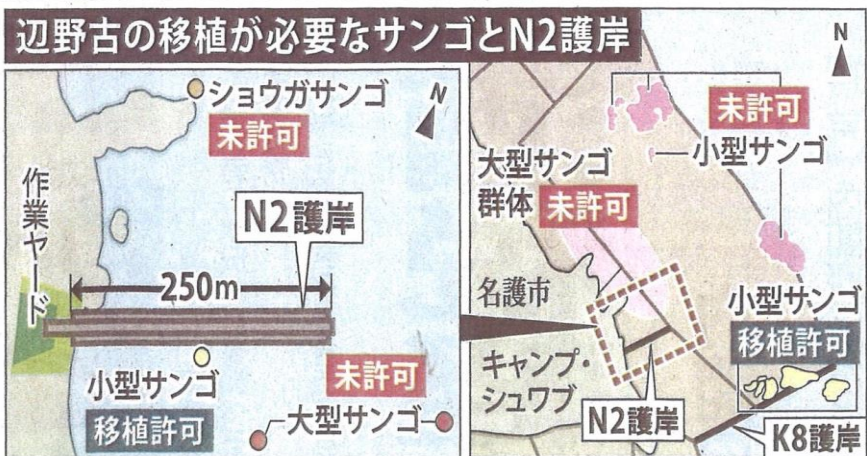
辺野古の現場では、沖縄防衛局の作業員がサンゴの採捕、移植作業を行い、事実上サンゴの大虐殺を繰り返しています。これに対しヘリ基地反対協の海上チームは抗議船とカヌーで連日のように抗議と監視活動を展開しています。8月26日には赤嶺政賢、屋良朝博両衆院議員が抗議船からカヌーチームを激励しました。赤嶺氏は、海上チームに激励の言葉をかけ、「県民の新基地反対の民意は揺るぎません。総選挙でオール沖縄の勝利と全国での野党と市民の共闘で政権交代を実現し、辺野古新基地建設の息の根を止めましょう」と訴えました。

**「総選挙で審判を！」と高まる県民の反発**

県が示した条件を防衛局が無視し真夏のサンゴ移植を強行。しかもサンゴをハンマーで打ち砕き強毒性ポンドで接着するという無謀な自然破壊です。8月27日には新たなN2護岸工事着工しました。これは、玉城知事が近く防衛局からの設計変更申請を不承認とすることや、遺骨混じりの南部土砂の埋立に反対する世論の高まりに菅政権が追い詰められ焦って既成事実化することを狙っているものです。しかし、逆に県民の怒りと反発を引き起こし、「総選挙で『オール沖縄』を勝利させ菅政権に審判を！」の世論を高めることになるでしょう。



上の写真はサンゴの移植作業船。右写真は、海上チームを激励する赤嶺（右）と屋良両衆院議員



### 既成事実化 急ぐ国 「工期ありき」憤る県

沖縄タイムスは8月28日、N2護岸工事着問題で「周辺には軟弱地盤があり、新基地を完成させるには玉城デニー知事の埋め立て変更承認が必要になる」と工事の見通しも立たない中での着工に、既成事実化を図ろうとする国の強硬姿勢が鮮明となった」と報じました。(図も沖縄タイムス紙より)

### 共産党が米軍のPFOS放出に抗議

日本共産党沖縄県委員会の赤嶺政賢委員長らは8月27日、在沖米海兵隊が、米軍普天間飛行場に保管していた有機フッ素化合物PFOS（ピーホス）などを含む汚水を浄化し下水道へ排出し始めたことを受け、沖縄防衛局を訪ねて小野功雄局長に抗議しました。赤嶺氏は「放出の即刻中止」など6項目を要請。小野局長は「米側から放流開始の連絡を受け、直ちに放出中止を要請した」と説明したものの、要請に対しての米側の返答については「日米間のやりとりの細部はこの場でお答えすることはできない」と明かしませんでした。



防衛局の小野局長（右）に抗議文書を手渡す赤嶺県委員長

### 県高教組南部支部 抗議船から新基地建設現場を視察

沖縄県高教組南部支部の幸地一支部長ら5人が8月29日、抗議船に乗船し海上から新基地建設現場を視察しました。幸地氏は「現場を見て、政府の民意無視の工事強行に怒りが湧いてきました」と話しました。この後、一行はゲート前や名護湾の安和港、塩川港も視察しました。

#### 全ての団体に現場を見てほしい

ヘリ基地反対協・仲本興真事務局長は「県内の全ての労働組合や団体に現場を見てほしい。それが新基地建設を許さない世論を高め、総選挙や来年の知事選挙勝利の力になる」と話しました。

**※抗議船への乗船希望の際は、名護共同センターへご連絡を（当ニュース最上欄参照）**



辺野古のテント2で幸地支部長（右）から仲本氏に支援カンパが渡されました。

### 「助かります」と学生さん

民主青年同盟沖縄県委員会が呼びかけた学生への食糧支援活動「ゆいゆいパントリープロジェクト in NAGO 第3弾」が8月29日、名護市役所ピロティで行われました。名桜大生ら約50人が支援を求めて参加しました。ある女性は「名桜大3年生です。レストランのアルバイトができなくなったのでとても助かりました」とマスク越しに微笑みしました。

